

命を守る知識と意識

30年総合防災訓練を実施

「平成30年度市総合防災訓練」は6月10日、市消防防災センターで行われ、自主防災組織や消防関係団体など約300人が参加しました。

防災訓練は、地域の防災を担う自主防災組織の防災力向上と防災体制の強化が目的。参加者は、初期消火、応急救護や避難所の運営のほか、弾道ミサイルが発射されたことを想定した避難訓練を実施しました。参加した金澤いく子さん(65)＝石越町第11＝は「椅子を使ったけが人の搬送方法など、知らないことが多く勉強になりました。知識を身に付けておくことが大切です」と訓練の重要性を再認識していました。



図面上で避難所運営について相談する参加者ら。食料が不足した場合の対応方法などで本番を想定し、話し合いました。

SNSで魅力を発信

サポーターの登録を開始

「登米市シティプロモーションサポーター制度発表会」は6月4日、迫庁舎で開かれ、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)などで市をPRしている4人と1団体(仙台ロイヤルパークホテル)に登録通知書が交付されました。

サポーター制度は、SNSを活用して市の魅力を発信したり、認知度を向上させたりするイベントなどに参加する個人・団体を募集するもの。登録第1号となった泉朋行さん＝迫町八日町＝は「大きな体格を生かして、登米市の美味しい食を紹介していきたい」と意気込んでいました。



市シティプロモーションサポーターになった皆さん。サポーターとして活動できる人なら、どなたでも登録可能です。

専門知識を無料伝授

商店会連合会でまちゼミ

得する街のゼミナール「とめまちゼミ」は6月15日から7月15日まで、佐沼商店会連合会加盟商店24店、25講座が開かれ、多くの人を受講しました。

まちゼミは、お店からのにぎわいの創出を目的に佐沼商店会連合会が実施。店主が講師となり、専門知識と技を受講者に伝授しました。日用雑貨店の「佐藤荒物店」では、風呂敷でのモノの包み方講座を開講し、10人が受講。風呂敷でのラッピング方法を学びました。加藤富士子さん＝迫町八幡＝は「たすに眠っていた風呂敷が、おしゃれによみがえりました。風呂敷を普段から使っていきたい」と笑顔を見せました。



風呂敷での一升瓶の包み方を教わる受講者。何度でも使える布のラッピングは、気軽に取り組めるエコ活動です。

高校生らが国際交流

アメリカからの表敬訪問

本市の姉妹都市、米国テキサス州サウスレイク市から青少年訪問団9人が登米市を訪れ、6月5日から11日までの7日間、ホームステイなどで交流を深めました。

訪問団は、登米町にある教育資料館の見学、もくもくハウスでの小物入れ作成や佐沼高校で茶道を教わるなど、本市の歴史と文化に触れ、日本文化を肌で感じました。7日の夜には、宝江ふれあいセンターで歓迎ポットラックパーティーが開かれ、登米春嵐太鼓を体験。参加した子どもたちと英語を交えながら、お互いの文化について話し、食事を楽しみながら充実した時間を過ごしました。



佐沼高校で高校生に教わりながら、茶道体験を楽しむサウスレイク市青少年訪問団のメンバー。

ボートで交流の輪を

全国ボートサミット開催

「第31回全国ボート場所在市町村協議会首長会議(ボートサミットin登米)」(同協議会、市主催)は6月29日、ホテルサンシャイン佐沼で開かれ、協議会に加盟する32市町村の首長や日本ボート協会の関係者など、約70人が出席しました。

協議会会長の田中幹夫富山県南砺市長は「各自治体を持つ利点を生かしながらボートの素晴らしさを伝え、交流の輪を広げたい」とあいさつ。各地域の取り組みや課題などを話し合いました。日本ボート協会は、東京五輪ボート競技に出場する世界各国の事前合宿状況などを報告し、出席者らは情報を共有しました。



熊谷市長は、2020年東京五輪・パラリンピックボート競技の事前合宿誘致に向け、整備を進めている長沼ボート場をPRしました。

元気に帰ってきてね

ヤマメ稚魚の放流を実施

「ヤマメの稚魚の放流」は6月6日、登米町水辺プラザ船着場で行われ、登米幼稚園と登米北上こども園の園児47人は、約2500匹のヤマメの稚魚を北上川に放流しました。

稚魚の放流は、市民の飲み水のもとになっている北上川が、いつまでも魚が住めるようなきれいな川であるようにと、水道週間の一環として毎年実施。園児らは、とよま北上川カップの会の舟嶋茂昭さん(65)＝東和町米谷2区＝からヤマメの生態について話を聞いた後、「大きくなって帰ってきてね」と願いを込めながらヤマメを川に放流しました。



北上川にヤマメの稚魚を放流する園児たち。放流後、さっそく泳ぎ回るヤマメに「元気でね」と手を振っていました。